

2025年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年5月13日

上場会社名 株式会社フォーサイド 上場取引所 東
コード番号 2330 URL https://www.forside.co.jp/
代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 大島 正人
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 佐々木 博司 TEL 03 (6262) 1056
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年12月期第1四半期の連結業績（2025年1月1日～2025年3月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年12月期第1四半期	1,483	49.9	59	—	60	—	55	—
2024年12月期第1四半期	989	△6.1	△28	—	△24	—	△38	—

(注) 包括利益 2025年12月期第1四半期 50百万円 (—%) 2024年12月期第1四半期 △35百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年12月期第1四半期	1.30	—
2024年12月期第1四半期	△1.02	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2025年12月期第1四半期	4,712	2,550	54.1	59.74
2024年12月期	3,565	2,499	70.1	58.56

(参考) 自己資本 2025年12月期第1四半期 2,550百万円 2024年12月期 2,499百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2025年12月期	—				
2025年12月期（予想）		—	—	—	—

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無
2. 2025年12月期の配当予想は今後の業績見通し等を踏まえて判断することになっているため未定であります。

3. 2025年12月期の連結業績予想（2025年1月1日～2025年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	5,535	3.7	143	185.7	153	222.2	118	83.7

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無
当社は2025年3月31日開催の取締役会決議に基づき、2025年4月16日付で第三者割当による自己株式の処分を実施いたしました。連結業績予想の「1株当たり当期純利益」については、当該自己株式の処分の影響を考慮しております。なお、詳細は、添付資料11ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (重要な後発事象の注記)」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：有
新規 1 社 (社名) 株式会社 antz

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (会計方針の変更に関する注記)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2025年12月期 1 Q	43,687,704株	2024年12月期	43,687,704株
② 期末自己株式数	2025年12月期 1 Q	994,964株	2024年12月期	994,724株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2025年12月期 1 Q	42,692,825株	2024年12月期 1 Q	37,666,629株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び本資料の発表日現在において合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束するものではありません。実際の業績等は今後の様々な要因によって予想と大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予測などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(会計方針の変更に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	11
(収益認識関係の注記)	11
(重要な後発事象の注記)	11

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、賃上げによる雇用・所得環境の改善やインバウンドの増加等により、国内景気は緩やかな回復基調となりました。また、少子高齢化等による人手不足の進行に伴い、生成AIの活用をはじめとするDX関連投資も増加の傾向にあります。一方で、ウクライナ情勢の長期化による資源価格の高騰、米国の通商政策の今後の展開を巡る不確実性の高まりや、国内の物価上昇の長期化などの景気減速リスクについて、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループの事業領域であるプライズ事業を含むアミューズメント市場におきましては、外国人観光客の増加や技術の進化などに伴い、アミューズメント施設の集客も好転しておりますが、引き続き人件費の高騰や電気料金の度重なる値上げによるコストの増加等、厳しい事業環境が続いております。

情報通信分野におけるAIの市場概況におきましては、我が国におけるAIシステム市場規模（支出額）は、2023年に6,858億円（前年比34.5%増）となっており、今後も成長を続け、市場規模はさらに拡大していくものと予測されております。

このような経済状況の中、当社グループにおいては、主力事業であるプライズ事業・AI関連事業を中心に事業収益の拡大を図ってまいりました。また、2025年3月31日に、総合人材サービス事業を展開をする株式会社antzの全株式を取得し、新たに総合人材サービス事業に参入いたしました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の営業収益は1,483,539千円（前年同期比49.9%増）、営業利益は59,901千円（前年同期は営業損失28,540千円）、経常利益は60,779千円（前年同期は経常損失24,766千円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は55,303千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失38,376千円）となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

なお、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（セグメント情報等の注記）」に記載のとおり、報告セグメントを変更しており、当第1四半期連結累計期間の業績説明及び比較分析は変更後の区分に基づいて記載しております。

①プライズ事業

プライズ事業につきましては、株式会社ブレイクがクレーンゲーム機等のプライズゲーム用景品の企画・製作・販売を行っております。

当第1四半期連結累計期間においては、キャラクターグッズや雑貨系商材を中心に受注件数が堅調に推移し、外国人観光客の増加等により、アミューズメント施設の集客が好調となり、売上高は前年同期を上回りました。また、輸送費や原材料費が高騰する中、継続した原価低減策による原価率の改善、事務所移転等による固定費の削減に努めた結果、セグメント利益が増加いたしました。

以上の結果、売上高は664,987千円（前年同期比32.6%増）、セグメント利益は71,072千円（前年同期比115.8%増）となりました。

②コンテンツ事業

コンテンツ事業につきましては、株式会社ポップティーンが電子書籍配信サイト「モビぶっく」の運営を行っております。

当第1四半期連結累計期間においては、電子書籍配信サイト「モビぶっく」において、引き続き広告宣伝費の抑制に努めながらも、費用対効果の高いプロモーション施策を継続することで、新規顧客の獲得に努めてまいりました。また、既存ユーザーに対しては、取扱い作品数の拡充やサイトのユーザビリティの向上を図ることで、顧客継続率を高めるための施策を行ってまいりましたが、システム利用料等の費用増加を吸収できず、セグメント損失は増加いたしました。

以上の結果、売上高は19,268千円（前年同期比7.5%減）、セグメント損失は5,128千円（前年同期はセグメント損失1,873千円）となりました。

③イベント事業

イベント事業につきましては、株式会社ブレイクが各地の大型商業施設の催事場にて著名なコンテンツの展示販売を中心に行っております。

当第1四半期連結累計期間においては、大型イベントの開催がなかったこと、またOEM物販の受注が減少したことに伴い、売上高は前年同期を大きく下回り、セグメント損失は増加いたしました。

以上の結果、売上高は5,598千円（前年同期比68.1%減）、セグメント損失は23,592千円（前年同期はセグメント損失5,060千円）となりました。

④マスターライセンス事業

マスターライセンス事業につきましては、主に株式会社ポップティーンが出版事業を行っております。

当第1四半期連結累計期間においては、ポップティーンモデルの「2025年専属モデルオーディション」の開催、女子小中学生向け雑誌「Cuuga1」の2月号の発売を実施しました。

以上の結果、売上高は49,350千円（前年同期比4.5%増）、セグメント利益は4,554千円（前年同期比29.3%増）

となりました。

⑤AI関連事業

AI関連事業につきましては、株式会社AI Tech SolutionsがAIを活用した事業効率化ツールの開発、AI開発支援向けGPUサーバーの販売及び販売代理を行っております。

当第1四半期連結累計期間においては、GPUサーバーの販売促進策が功を奏し多額の案件を複数獲得したことにより、業績が順調に推移いたしました。また、顧客との間で業務効率化ツール開発を現在進めており、当該開発に係る売上及び原価は、本ツールの顧客への引渡し完了した時点で認識する予定です。

以上の結果、売上高は687,800千円（前年同期は売上高6,000千円）、セグメント利益は41,793千円（前年同期比647.0%増）となりました。

⑥物流関連事業

物流関連事業につきましては、株式会社エムが一般貨物自動車運送事業及び貨物利用運送事業を行っております。

当第1四半期連結累計期間においては、貨物利用運送事業の業績が好調に推移しており、また、一般貨物自動車運送事業につきましても、売上が堅調に推移しております。

以上の結果、売上高は56,533千円、セグメント利益は23,508千円となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

①総資産

当第1四半期連結会計期間末における総資産は前連結会計年度末に比べて1,146,718千円増加し、4,712,075千円となりました。主な要因といたしましては、現金及び預金の増加878,959千円、のれんの増加334,629千円、保険積立金の増加156,076千円及び前渡金の減少201,857千円等によるものであります。

②負債

当第1四半期連結会計期間末における負債は前連結会計年度末に比べて1,096,142千円増加し、2,161,510千円となりました。主な要因といたしましては、長期借入金の増加422,424千円、未払金の増加345,271千円、前受金の増加261,401千円等によるものであります。

③純資産

当第1四半期連結会計期間末における純資産は前連結会計年度末に比べて50,575千円増加し、2,550,564千円となりました。主な要因といたしましては、親会社株主に帰属する四半期純利益55,303千円の計上、為替換算調整勘定の減少4,684千円等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年12月期の連結業績予想につきましては、「2024年12月期決算短信」における通期の業績予測から変更しておりません。

なお、本資料に記載されている業績予測等の将来に関する記述は、当社が本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績等は今後様々な要因によって予想と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,404,029	2,282,988
受取手形、売掛金及び契約資産	979,392	928,164
商品	159,446	155,653
前渡金	429,641	227,784
短期貸付金	240,374	181,561
その他	45,589	57,002
貸倒引当金	△1,506	△1,645
流動資産合計	3,256,967	3,831,508
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	18,322	35,008
土地	996	2,977
その他（純額）	42,107	55,101
有形固定資産合計	61,425	93,088
無形固定資産		
のれん	—	334,629
ソフトウェア	12,009	11,289
その他	0	0
無形固定資産合計	12,009	345,918
投資その他の資産		
投資有価証券	176,469	176,469
長期貸付金	8,320	8,320
敷金	37,963	69,993
保険積立金	—	156,076
長期未収入金	7,187	7,187
その他	12,399	30,706
貸倒引当金	△7,386	△7,193
投資その他の資産合計	234,954	441,559
固定資産合計	308,389	880,566
資産合計	3,565,357	4,712,075

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	273,403	228,338
未払金	115,037	460,309
未払法人税等	28,681	11,098
前受金	325,655	587,056
1年内返済予定の長期借入金	84,832	215,456
その他	69,998	70,222
流動負債合計	897,607	1,572,479
固定負債		
長期借入金	160,844	583,268
その他	6,916	5,762
固定負債合計	167,760	589,030
負債合計	1,065,368	2,161,510
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	1,495,778	1,495,778
利益剰余金	1,189,782	1,245,085
自己株式	△204,567	△204,611
株主資本合計	2,490,993	2,546,253
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	8,995	4,311
その他の包括利益累計額合計	8,995	4,311
純資産合計	2,499,989	2,550,564
負債純資産合計	3,565,357	4,712,075

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)
営業収益		
売上高	593,015	1,483,539
その他の営業収益	396,612	—
営業収益合計	989,627	1,483,539
営業原価		
売上原価	426,407	1,199,590
その他の原価	115,288	—
営業原価合計	541,695	1,199,590
売上総利益	447,931	283,948
販売費及び一般管理費	476,472	224,047
営業利益又は営業損失(△)	△28,540	59,901
営業外収益		
受取利息	1,670	3,347
為替差益	387	—
貸倒引当金戻入額	—	86
債務消滅益	6,338	—
その他	58	1,131
営業外収益合計	8,454	4,566
営業外費用		
支払利息	1,904	1,492
貸倒引当金繰入額	35	—
株式交付費	—	1,981
支払補償費	2,182	—
為替差損	—	30
その他	557	184
営業外費用合計	4,680	3,688
経常利益又は経常損失(△)	△24,766	60,779
特別損失		
固定資産除却損	0	—
特別損失合計	0	—
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△24,766	60,779
法人税、住民税及び事業税	13,610	6,629
法人税等調整額	—	△1,153
法人税等合計	13,610	5,476
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△38,376	55,303
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△38,376	55,303

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△38,376	55,303
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	2,801	△4,684
その他の包括利益合計	2,801	△4,684
四半期包括利益	△35,575	50,619
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△35,575	50,619

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(会計方針の変更に関する注記)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。

法人税等の計上区分(その他の包括利益に対する課税)に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。)第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、当該会計方針の変更による四半期連結財務諸表への影響はありません。

また、連結会社間における子会社株式等の売却に伴い生じた売却損益を税務上繰り延べる場合の連結財務諸表における取扱いの見直しに関連する改正については、2022年改正適用指針を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。当該会計方針の変更は、遡及適用され、前年四半期及び前連結会計年度については遡及適用後の四半期連結財務諸表及び連結財務諸表となっております。なお、当該会計方針の変更による前年四半期の四半期連結財務諸表及び前連結会計年度の連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2024年1月1日 至 2024年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

	報告セグメント					
	プライズ	不動産関連	コンテンツ	イベント	マスター ライツ	AI関連
売上高						
顧客との契約から生じる収益	501,436	379,832	20,822	17,542	47,214	6,000
その他の収益(注) 3	—	16,780	—	—	—	—
外部顧客への売上高	501,436	396,612	20,822	17,542	47,214	6,000
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	501,436	396,612	20,822	17,542	47,214	6,000
セグメント利益又はセグメント損失(△)	32,940	△8,462	△1,873	△5,060	3,522	5,594

(単位:千円)

	合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
売上高			
顧客との契約から生じる収益	972,847	—	972,847
その他の収益(注) 3	16,780	—	16,780
外部顧客への売上高	989,627	—	989,627
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	989,627	—	989,627
セグメント利益又はセグメント損失(△)	26,660	△55,200	△28,540

- (注) 1. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△55,200千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント利益又はセグメント損失(△)は四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。
3. その他の収益は、不動産賃貸収入であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

	報告セグメント						
	プライズ	コンテンツ	イベント	マスター ライツ	AI関連	物流関連	総合人材サ ービス
売上高							
顧客との契約から生 じる収益	664,987	19,268	5,598	49,350	687,800	56,533	—
外部顧客への売上高	664,987	19,268	5,598	49,350	687,800	56,533	—
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	664,987	19,268	5,598	49,350	687,800	56,533	—
セグメント利益又はセ グメント損失(△)	71,072	△5,128	△23,592	4,554	41,793	23,508	—

(単位:千円)

	合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
売上高			
顧客との契約から生 じる収益	1,483,539	—	1,483,539
外部顧客への売上高	1,483,539	—	1,483,539
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—
計	1,483,539	—	1,483,539
セグメント利益又はセ グメント損失(△)	112,207	△52,306	59,901

- (注) 1. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△52,306千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント利益又はセグメント損失(△)は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項
(「不動産関連」事業の廃止)

前連結会計年度において「不動産関連」事業を構成しておりました当社の連結子会社(特定子会社)でありました日本賃貸住宅保証機構株式会社について、2024年10月1日付で全株式を売却したため、連結の範囲から除外しております。このため、当第1四半期連結会計期間より当該報告セグメントを廃止しております。

(事業の新設)

当社は、2024年8月1日付で、株式会社エムの株式を取得したことにより、前連結会計年度の第3四半期連結会計期間から「物流関連」事業を新たに報告セグメントに追加しております。

また、2025年3月31日付で、株式会社antzの株式を取得したことにより、当第1四半期連結会計期間から「総合人材サービス」事業を新たに報告セグメントに追加しております。なお、当第1四半期連結累計期間においては同社の貸借対照表のみを連結しており、四半期連結損益計算書に同社の業績は含まれておりません。

前第1四半期連結累計期間のセグメント情報を当第1四半期連結累計期間の報告セグメントの区分方法により作成した情報については、前第1四半期連結累計期間に物流関連事業及び総合人材サービス事業を行っていなかったことから、開示を行っておりません。

3. 報告セグメントごとの資産に関する情報

当第1四半期連結会計期間において、株式会社antz（2025年3月31日株式取得）を連結子会社化したことにより、前連結会計年度の末日に比べ、「総合人材サービス事業」セグメントの資産の金額が1,479,091千円増加しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「総合人材サービス事業」セグメントにおいて、株式会社antz（2025年3月31日株式取得）を連結子会社化したことにより、当第1四半期連結会計期間においてのれんが334,629千円発生しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)
減価償却費	4,418千円	8,747千円

(収益認識関係の注記)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は「注記事項（セグメント情報等の注記）」に記載のとおりであります。

(重要な後発事象の注記)

当社は、2025年3月31日付開催の取締役会において、長尾康裕氏に対する第三者割当による自己株式の処分を行うことを決議し、2025年4月16日に払込が完了しております。

第三者割当による自己株式の処分の概要

(1) 払込期日	2025年4月16日
(2) 処分株式数	普通株式 900,000株
(3) 処分価額	1株につき153円
(4) 調達資金の額	137,700,000円
(5) 処分方法	第三者割当による処分
(6) 割当先	長尾康裕氏に全ての株式を割り当てます。
(7) その他	調達資金の額の全額につき、株式会社antzの普通株式（1,020株）の取得対価の一部（未払金の請求権）の現物出資による第三者割当の方法によります。